



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 金子 與志人 人生高等学校同窓会事務印
 題字 三浦賢一
 編集 福島東高等学校同窓会
 印刷 吾妻印刷

福島東高等学校

同窓会

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



私は三期生なので、福島東高等学校を卒業して三十年近くが過ぎようとしています。

そんな月日を重ねている中で、日常にふつと高校時代を思い出すことがあります。

自分が二十代の頃は、あの時に戻れたらとか

三十代の頃は、あの思い出の記憶は間違いないかな?とか...

そして今、四十年代後半にさしかかると昔みたくあの時に戻りたいと言う気持ちはなく、少しずつ薄れて行き曖昧になって来た思い出をパズルの様に組み合わせてながら自分の年齢を実感している様な気がします。

卒業して三十年近くたった方であれば、まだ一年目の方もいると思います。

また、まだ在校生でこれから高校を卒業する方もいます。

約一万人の卒業生がそれぞれの年代でそれぞれの思いを、東高と言う共通のキーワードで繋がっていると思うと、東高の偉

大さと歴史の積み重ねに感動する次第です。

みなさまは、どんな思いを高校時代に残してきましたか?

どんな思い出を懐かしく脳裏に浮かべますか?

なぜ、こんな感傷的なことを書いているかと言うと、同窓会運営に多少携わったのもぎっかけの一つです。

しかし、それだけではなく今の時代を象徴するSNSの存在も大きな要因の一つとなつているかと思つています。

今までは、卒業名簿や同級会はたまたま偶然にも出会う機会や旧友との親交を改めて温めることができていました。

そして、そこにSNSと言われる、フェイスブック・ツイッター・LINEなどが登場することで今まで以上の再会が実現しています。

もちろん使い方を間違えれば、犯罪に巻き込まれたり、個人情報が出るとの恐れがありますが、から全てが良いとは言えないのも現状です。

話を本題に戻しますが...

その様な便利な物を活用することにより、過去の事や忘れていたことを身近に感じることが出来るようになりました。

当り前ですが、これからの世の中は様々なことが待ち受けています。

その中で生活をしていくには、目の前の出来事に真正面からぶつかっていくしかありません。

しかし、昔を思い出す余裕を少しでも持つことは大切なことではないでしょうか?

昔の仲間に勇気や元気をもらうことは人間味のあることではないでしょうか!?

ソフトとハードの融合という言葉があります。

まさにこれからの同窓会発展の為に必要なことの一つだと思つています。

突き詰めていけば、人間と人間の関わりが基本です。皆さんの生活は、毎日の出来事に忙殺



されている日々だと思つています。

そこに、同窓会と言うコアシスを置いてみませんか? 特別何が出来るとは言えませんが、見えない何かがある様な気がします。

世代を超え、性別を超え、いろいろな情報交換も出来る気がします。

毎年増えていく同窓生に対して、少しでも魅力ある同窓会にして行きたいと思つますし、年をとつても気軽に参加出来る会にしたいと考えています。

とりとめのない原稿になりましたが、同窓会の土台を築いてくださった歴代校長先生、恩師諸先輩とご父兄に感謝申し上げます。

今後ともよろしくお願ひします。

グローバル世界の本校生

福島東高等学校長 田村 秀夫



福島東高校では現一年生が三期生となりました。今年も一年生対象の「様々な職業人に聞く」では多くの同窓生の方々に講師としてお力添え頂きましたことに感謝申し上げます。各界のトップで活躍している卒業生は生徒にとって憧れでもあり、誇りでもあります。また三十年以上も前に同じ教室で学んだ先輩方の講義を、生徒一人ひとりが親近感を抱きながら聞くことができました。

平成二十五年度の学校経営・運営ビジョンに「グローバル世界で、共同したり競い合ったりしながら、国際社会をリード出来る人材の育成」があります。グローバル世界では、運輸交通・通信技術の発達により、ヒト、モノ、カネ、情報がかつてない

スピードと規模で国境を越えて移動しています。世界の資源が流動化することによって、世界各国・地域の経済成長・発展も大きく促進されていますが、経済成長・発展の裏では富める者と貧しい者との格差がこれまで以上に大きくなっているのも事実です。こうした世界にあつて、グローバル化に対応する安全保障の概念として「人間の安全保障」が提唱されています。日本の緒方貞子氏が共同議長を務めた「人間の安全保障委員会」では人間の安全保障は「国家」ではなく、その先にある「人々」に焦点を当て、人々自らが安全と発展を推進する主体となることが必要であると述べています。人と人が繋がりが、そして国と国が繋がっていくのです。かつては、日本を代表していたのは大使館員でしたが、当然のことながら、国境を越えたグローバルな双方向の関係性の中で、今や日本を代表するのは大使館員で

はありません。国民一人ひとりなのです。世界のどこに居ようと日本人としての国際協力のありかたが問われてきます。これからは日本人の一人ひとり、とりわけ、若者がグローバル世界の外交に関わってくるのです。グローバル化の深化とともに、国際社会が直面する問題も従来に増して重層的かつ複雑になっています。東西冷戦、南北問題が解決しても、国際テロ、海洋領域、サイバー問題、大気圏問題と、世界の若者が今後解決しなければならない課題は山積みです。そして若者に対する期待は世界中どの国においても大きなものがあります。政治的変動問題に関わる若年層の割合が高いアラブ諸国において、抗議運動の主体は「若者層」という社会集団です。米軍撤退後のアフガニスタンの将来を語る時、若い世代に目を向けていかざるを得ません。日本においても、今後数十年間にわたるであろう福島第一原発の事故処理において若者に期待することが大でありましょう。

さて、同窓生の皆さんもご存じのように、本校で学ぶ若者は大学進学を目指し、毎日の学習に励んでいます。しかし、東高は単に生徒を大学に送るだけの高校ではありません。「文武両道」をモットーに、知・徳・体の調和を重んじ、グローバル人材を目指し、豊かな教養と正しい判断力を身につけていきます。生徒は部活動にも、学校行事、生徒会行事にも積極的に参加しています。すでに共同したり競い合ったりすることを経験をしているのです。安易に「文武両道」という言葉が使われがちですが、実践するには、強い精神力が必要であり、三年間部活動を続けることは本人しか分からない苦勞も多くあると思います。その苦勞を乗り越え、強い精神力を得た本校生が、先輩から引き継がれている、誠実さ、勤勉さを備え、将来グローバル世界で、安全と発展を推進する主体となり、これからの日本を支えてくれると確信しています。

総会のお知らせ

【日 時】	2月15日 (土)
同窓会総会	17:00~
懇親会	18:00~
【場 所】	エルティ
【出席締切】	2月7日 (金)
【懇親会費】	19期以前 5,000円
	20期以降 3,000円

注意です!

同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に寄せられることがあります。同窓生の携帯電話の番号や現住所を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送です。電話等による問い合わせは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。東高の電話番号は 024-531-1551 です。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。

1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。

第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。

第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成24年度 歳入歳出決算書

歳入金額 3,663,093円
歳出金額 3,377,488円
差引残額 285,605円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 7 columns: 項目, 当初予算額, 繰入額, 現計予算額, 決算額, 増 減, 備 考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会預立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 7 columns: 項目(科目), 当初予算額, 流用額, 現計予算額, 決算額, 残 額, 備 考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在 校 生 支 援 事 業, 公開文化祭後援費, 50周年事業積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

平成25年度 歳入歳出予算書(案)

歳入金額 3,410,000円
歳出金額 3,410,000円
差引残額 0円

1. 歳 入 ▲は減少 単位：円

Table with 5 columns: 項目, 25年度予算額, 24年度予算額, 比較増減額, 備 考. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 同窓会預立金, 東高応援基金, 合計.

2. 歳 出

Table with 5 columns: 項目(科目), 25年度予算額, 24年度予算額, 比較増減額, 備 考. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 総会費, 運営費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 名簿管理費, 通信費, 会報郵送料, 情報保護費, 通信費, 在校生支援費, 在 校 生 支 援 事 業, 公開文化祭後援費, 50周年事業積立, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」 協賛者名

()は卒業期
()は旧姓

○「東高応援基金」について

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方に「協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いします。その際、おわかりになりましたら、卒業年度もしくは何期かを記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためにという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

西山尚利(1)尾形幸男(1)赤井義則(1)國分和富(1)木村浩一(1)三浦信彦(1)佐戸川政実(1)大平陸生(1)菊池浩二(1)岡田正孝(1)久能靖(1)田

- 村健(1)遠藤勝利(2)穴戸英樹(2)目黒幹浩(2)齋藤靖(2)真柴毅(2)小野浩樹(2)佐久間俊光(2)秋葉直樹(2)阿部真人(2)高城卓也(2)永井貴博(2)渡辺伸一(2)鈴木達也(2)尾形典良(2)金子與志人(3)齋藤孝一(3)齋藤仁久(3)佐藤智彦(3)紺野信幸(3)外山淳一(3)西條正美(3)吉留央(3)安田清克(3)坂巻幸司(3)大内則和(3)柏谷智也(3)蒲倉達也(3)佐々木晋一(3)佐藤和生(3)太田幸人(3)岡田正明(3)小林雄(3)高根功幸(3)森進一(3)安藤武仁(3)内池弘樹(3)寺島健吾(3)大井奨(3)島良七(3)泉田太郎(3)齋藤文孝(3)下島仁(3)梅津真樹(4)佐藤真一(4)鎌田勝博(4)佐藤剛志(4)古閑邦彦(4)真柴直史(4)河野輝祐(4)吉川裕(4)松本重明(4)上原子祐司(4)星達雄(4)尾形隆(5)上川高志(5)永澤憲一(5)小野友史(5)富樫隆男(5)手塚健一(5)伊藤隆典(5)渡辺幹男(5)小竹智行(5)小池昭博(5)古閑啓(5)渡辺裕哉(5)佐久間学(6)佐藤利久(6)山川毅(6)佐々木光洋(6)菅野耕司(6)穴戸敢一(7)中澤充宏(7)佐藤史(7)久保聡(7)紺野浩史(7)阿曾一寛(7)佐々木宗(7)山岸竜大(7)藤原武志(7)渡部泰史(7)角田純也(7)大波哲也(7)岡崎道浩(7)岡村厚(7)樺山誠治(7)織井健次(7)松本琢也(7)二文字屋哲(8)板橋孝行(8)関克典(8)熊坂隆(8)東城幸治(8)石原英明(8)佐久間潤(8)佐藤純一(8)千葉正人(9)菅野巧(9)河

- 野拓和(9)松田浩敬(9)細野昌芳(9)鈴木勇人(9)熊本康(10)佐藤宗孝(10)渡辺剛智(10)三浦和幸(10)橋内真太郎(10)三瓶幸彦(10)丹治正樹(10)内山雄史(10)氏家賢(10)渡邊賢司(10)加藤芳史(10)小川昌弘(10)熊坂隆行(10)高橋誠(10)吉田耕嗣(10)佐竹康弘(11)佐藤智頭(11)鈴木貴久(11)清野貴央(11)宮崎康弘(11)小林正宏(11)芳賀利規(11)菅野貴洋(11)板垣文浩(11)齋藤丞(11)猿田秀和(12)伊東博行(12)阿部貴洋(12)渡辺正敏(12)白川真(12)齋藤謙(12)大槻祐司(12)川勝庸史(13)早川晃夫(13)渡辺良一(13)安田裕(13)佐々木達(13)樋口智洋(13)渡邊巖(13)熊田教平(13)根本和彦(13)渡邊勝己(13)石川亨(13)齋藤博靖(14)廣野功二郎(14)曳地賢治(14)木幡健一(14)松野哲郎(14)高橋剛(14)菅野元樹(15)阿部裕一(15)齋藤訓朗(15)二文字屋剛(15)守山直樹(15)高野勝則(15)佐藤光太郎(15)渡邊繁(15)柘植健至(15)村木貴紀(16)逸見智則(16)高橋直之(16)土屋令雄(16)湯野澤しのぶ(16)熊坂幸代(16)鈴木尚也(16)湊和也(16)小沢梓(16)遠藤やよい(16)橋本真(16)古閑康宏(16)八巻優佳(16)渡邊亮栄(16)嶋原智宏(17)齋藤真由美(17)上杉光成(17)阿部信一(17)加藤友幸(17)池田和貴(17)尾形真希(17)松野大悟(17)加藤博之(18)谷内雅一(18)根本元徳(18)川崎布美子(18)水野裕史(18)野口雪乃(18)遠藤文敬(18)菅野理範(18)齋藤貴裕(18)石澤亜由美(19)片平美代子(19)熊坂哲(19)渡邊祝子(19)蓬田史徳(19)安達美希子

- (19)遠藤大輔(19)酒井強(19)山口卓也(19)浅川吉和(19)櫻田貴志(20)古山由佳(20)佐藤寛之(20)武田愛理(20)佐藤良作(20)橋内基純(20)鈴木理恵(20)遠藤小百合(21)齋藤広彰(21)後藤真美(21)嶋原佳明(21)清和敬子(21)伊達孝浩(21)尾形泰裕(21)橋翔大(22)佐藤宏樹(22)竹内大崇(22)佐藤梨奈(22)矢吹友紀(22)渡辺将人(22)阿部一貴(22)塩谷卓也(22)齋藤恵一(22)渡邊亮(22)嶋原絵美(23)水口秀一(23)米田秀(23)伊達孝典(23)山崎俊太郎(23)金子卓也(23)渡辺茂樹(23)古積かおる(23)高橋政哉(23)紺野靖(23)坂田亮人(23)高野未咲(24)瓶子綾(24)中野孝海(24)山内雄大(24)山田愛(24)佐々木宏樹(24)渡邊公偉(24)渡辺俊介(24)丹治佑樹(24)奥山勤武(24)藤森良仁(24)加藤文実(24)見城藍(24)菅野章平(24)福地美香(24)松田ゆきえ(24)國分優佳(24)紺野雄太(24)阿部兼太郎(24)安在沙織(24)菅野峻介(24)齋藤智也(25)鈴木春世(25)宮本圭太(25)菅野陽子(25)齋藤大地(25)齋藤智樹(25)大橋拓朗(25)若木豪人(25)伊藤奏(26)千代間祥之(26)大内豪(26)馬上泰彰(26)河野佳記(26)尾形早紀(26)國分聡美(26)吉田有希(26)菅藤脩平(26)紺野友里絵(26)佐久間翔一(26)阿部直人(26)佐久間美佳(26)遠藤禎之(27)嶋原美穂(27)佐々木孝智(27)永瀬由佳(27)渡邊兼人(27)佐藤しおり(27)佐藤香(27)松浦由樹(27)根本明大(27)古山彩佳(27)奥山朋世(27)川口真(27)塩谷昌之(27)丹治寛佳(27)穂積真人(27)関川崇(28)八巻裕(28)鈴

木契之(28)大和田善愛(28)山崎勇貴(28)岡崎綾奈(28)五十嵐絵里(28)佐久間敏弘(28)佐瀬大地(28)関根真衣(28)岩瀬里実(28)三浦崇悦(28)安田瑛理(28)山本伸洋(28)黒田耕平(28)遠藤俊平(28)澤井友平(28)渡邊浩平(28)佐藤望(28)吉田雄基(28)尾形茉帆(29)加藤真弓(29)齋藤史歩(29)遠藤香織(29)薄健介(29)齋藤大樹(29)西條琢磨(29)佐久間悠里恵(29)瀬戸隆司(29)安田春彦(29)菅藤雄介(29)島貫光佑(29)眞島慧(29)山崎健太郎(29)熊田光留(29)横澤勇輔(29)三輪真衣子(29)芳賀誠(29)齋藤駿介(29)三浦綾子(29)馬上大地(30)馬上雄大(30)岡崎真理子(30)熊谷泰輝(30)山方基輝(30)吉岡文(30)菅直斗(30)小松優貴(30)佐藤諄季(30)飯東僚(30)齋藤孝稀(30)鈴木千尋(30)小松大輔(30)萩原夏美(30)紺野優(30)深川美幸(30)八巻友一(30)齋藤隼希(30)佐藤伸哉(30)庄司龍弥(30)武田俊高(30)鳥麗奈(30)笠咲樹(30)渡辺拓郎(30)

平成二十五年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがございましたら、事務局までご一報下さい。

年度別 現役合格者 延べ人数

Table with 12 columns: 卒業年度 (S57-H4), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include S57-H4, S58-H5, S59-H6, S60-H7, S61-H8, S62-H9, S63-H10, S64-H11, S65-H12, S66-H13, S67-H14, S68-H15.

Table with 11 columns: 卒業年度 (H5-H14), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include H5-H6, H7-H8, H9-H10, H11-H12, H13-H14.

Table with 11 columns: 卒業年度 (H15-H24), 学級数, 卒業者数, 国公立大, 私立大. Rows include H15-H16, H17-H18, H19-H20, H21-H22, H23-H24.

(表1)

大学別合格者数 (平成24・23・22年度入試)

Table with 5 columns: 国公立大学, 平成24年度生, 平成23年度生, 平成22年度生. Lists various universities like 北見工業大, 北海道教育大, etc.

Table with 5 columns: 私立大学, 平成24年度生, 平成23年度生, 平成22年度生. Lists various private universities like 仙台大, 東北学院大, etc.

現役大学等進学率…平成24年度生(73.7%)、平成23年度生(83.0%)、平成22年度生(74.7%)

進路



進路指導部主任 平澤 貞博

はじめに平成二十五年度入試概況についてです。

近年、全国的に見られる傾向としては、「文低理高」の言葉の通り、文系学部の人気がなく、特に法学系の受験生は年々減少している。理系学部においては、

医療系や工学系といった資格や就職につながるっていく学部を受験生が集まってきている。また、受験生の安全志向が年々強くなっており、難関、超難関と呼ばれる大学でも、A判定やB判定がでなければ大学のランクを落とすという受験生も多く出てきた。また、国立・公立大学の希望者、特に地方の公立大学は、独自路線を打ち出すことで人気が出てきているようである。そんな状況の中、大学入試セ

(表2)

ンター試験では、国語と数学Aでの大幅な難化があった。受験業者発表によると、五教科総合九〇〇点満点において、文系では前年度より四〇点減、理系では三五点減となった。これによって安全志向にさらに拍車がかかり、本校のような、中堅クラスの国公立大学への志望者が多い高校にとっては、大変厳しい環境になったと言わざるを得ない。

また、福島大の出願状況については、センター試験後の受験業者の判定が甘めに出たため、結果として他県から多くの受験生が流入してきた。そのため本校を含む本県の受験生にとっては厳しい結果となった。

次に、本校三十一期生の進路状況についてです。

前述のような状況の中でも自分の目標に向かって必死に受験勉強に取り組み、多くの生徒が進路実現を達成して卒業していった。難関大学については、本校の悲願であった国公立大学医学部医学科への現役合格者一名をはじめ、東北大に三名、慶応大に一名合格した。福島大については前述の通りで、合格者二十八名は、例年より少ない人数である。特に行政政策学類と共生

システム理工学類で苦戦を強いられた。また、近隣の国公立大学については、ほぼ例年通りであった。

国公立大学の現役合格者数は一〇九名となり、これで十七年連続三桁を記録している。この合格者数は近年と比較すると多いものではない。しかし、難関大学や医学部へ果敢にチャレンジしたことや、福島大学の予想外の結果によるものであり、例年に比べて決して力が劣っていた訳ではない。今年度合格できなかった卒業生については、次年度の入試では必ず進路実現ができるものと期待している。

31期総括



31期学年主任
梅宮 康弘

一 はじめに

まず、三十一期を支えて頂いた担任の先生方は国語（伊勢将聡 数学（齊藤章子・川久保直子）英語（佐藤信治・伊藤三和子）地理（松本重明）化学（岡崎鏡子）の各先生。そして副担任として、一年次、音楽（星栄一）英語（山上大介）理科（新妻尉善男）二年次、数学（高梨

卓哉）日本史（鈴木博幸）三年次、英語（金川勇次）日本史（草野智教）の先生方でした。強い信念と生徒への愛情を持った先生方に三十一期の生徒たちは、時に厳しく叱咤激励され、時には温かく見守られながら三年間を過ごしたのです。

タイトルは総括ですが、三十一期生の三年間を振り返ることで、ご容赦ください。

二 雪・雨・三十周年…そして震災

先生方・生徒共に大志を抱いて一年次をスタートさせたわけですが、真の東校生となるための通過儀礼である校歌・応援歌講習を乗り越え、その成果を見せる晴れの舞台「桜梅戦」当日（4/17）、どうしたことか季節外れの大雪が降り中止を余儀なくされました。残念がる生徒と臨んだ「自然（文化）探究学習

では、雨、それでも、体育館で実施した長縄跳びで、クラスの団結力が高まり（優勝チームは桜梅戦で歌えなかった凱歌を歌っていました）、野外炊飯でも雨を避けるように身を寄せ合っていたことで、これも親密さがまじったのでした。一年次には三周年記念式典も開かれ、式典にも参加したことで、その後、東

高の校歌にある「新しい伝統」を引き継ぐべく、日々を部活動と学習の両面で頑張ろうとする姿が見られました。また、三周年関連の「様々な職業人に聞く」では、伝説の先輩方にも触れ東校生イズムを感じた生徒も多くいました。学習時間の少なさと課題の取り組みの悪さを常に叱られながらも、部活動に学習に精一杯取り組み、一年次が終わろうとしていた時、あの震災とその後原発事故による混乱が起こったのでした。（原発

の爆発事故後すぐ、テニス部三十一期生は原田・梅宮・鈴木・中村、他三十期生五名が全国選抜に出場できましたが、あの混乱の中福岡に行けたのは奇跡的なことでした。）

三 たくましい生徒たち

休校中、東高生の素晴らしさを感じたのは、様々なボランティア活動を行っている者が少なからずいたことです。自分のことだけ考えるのではなく、自主的に他者を助けようとする思いやりがある生徒達に感動しました。

休校が長引き、勉強は？部活動は？と、自分たちが大切にしていたことができない不安を訴えてくる生徒は徐々に増えていきました。体育館を避難所として

いた学校が、様々な意見がありながらも再開したのは四月八日。避難所におられた方々は、自由ながらも落ち着きを見せていた場所から移ることを、生徒達のためだからと文句一つ言わずに受け入れて下さったのでした。

再開しても、放射線量の不安は常に付きまとい、特に屋外の活動に対してどうすればいいか、行政機関の判断待ちでした。今考えると、すごい数値なのですが、文科省の最初の目安は「三・八μSv/h未満で、学校・校庭を平常通り利用して差し支えない」というものでした。二十三年五月号の東高通信に載せた数値は、「校舎外平均値二・七μSv/h、校舎内・体育館〇・二六μSv/h」で、プールの利用を除き、震災前の活動をすることにしました。（不安を煽ろうというのではありません。事実として、忘れてはならないということですから。）少しでも放射線の影響を避けるため、教室の窓は開けないように指示し、PTAの協力も得て、エアコンの稼働時期を例年より早くお願いしたのでした。（生徒達は、暑さを開けてしまっていました）。校庭の除染作業も無事終わり

(以前より水はけが悪くなったと、清文先生が嘆いていました)、生徒達は、若干の不安を残しながらも、以前の生活を送れるようになっていきました。

また、震災の影響で、数名の生徒が他校へと転校し、相双地区から数名の生徒達が転入しました。東高に戻ってきた生徒も、東高から元いた高校に戻っていった生徒もいました。周囲の生徒達はその都度柔軟に対応し、サポートしてくれましたし、転入者も東高生として学校生活を楽しんでいました。

この年のインターハイには、逆境を乗り越え、三十一期生では、剣道個人(中村)弓道女子団体(伊関・泉・武田・佐藤・伊藤他二名三十期生)が出場しました。特に弓道部は、全国五位となり、閉塞感を打ち破る快挙でした。

修学旅行では、宿泊ホテルや民泊の方々から手厚いもてなしを受け、私たちは被災者なんだなと少し思い知らされたものでした。しかし、ホテルの従業員の方々の寄せ書きや、民泊の方々からの義捐金は本当に心こもったもので、すっかりやらなくてはならないと感じました。生徒達も沖縄を十分に満喫していま

した。

秋には、佐藤信治先生率いるソフトボール部が東北大会で準優勝を果たし、次年度の文武両道の完成年度に向け大きな弾みにもなりました。

四 東高生として全力で

震災から一年過ぎ、三年生として新しい伝統を作るべく、先生方の指導も熱を帯び、生徒達は勉強に部活動に邁進していき

ました。部活動では、インターハイに陸上競技(馬場)弓道個人(武田)が出場しました。他にも全国を狙える部活動があり、あと少しの所で涙をのんだことが残念ですが、その悔しさも卒業後に生きていくものと思われま

す。そして、三年次を語るには外せない公開文化祭。主任としては、来るべき受験に向け、両立を図ってほしかったのですが、東高生は学校行事には常に全力少年です。夏休みの課外中から、寸暇を惜しんで、全員が一丸となって(それこそ勉強が大事だからと他者に任せていなくなる生徒は皆無でした)文化祭の準備に取り組んだのです。それまで学校行事で三十一期を象徴するような悪天候の心配もなく、好天の下、仮装行列・公開文化

祭が行われ、入場者数三千人という大盛況の内に幕を閉じるこ

それで素晴らしい卒業式だったと思います。この学び舎で三年間を素晴らしい先生方と素晴らしい仲間

に、満足そうな笑顔が浮かんでいました。

ことへの感謝を全身で表していたと思います。

秋には、二年ぶりに校内マラソン大会が復活し、東高生として皆元気に完走しました。

進路結果については、進路の欄に詳細がありますので、こちらを見て頂ければわかります。

そして、受験生の顔になった三十一期生は大多数の生徒が受験するセンター試験を迎えました。結果は、佐藤信治・伊藤三和子両先生が、夜遅くまで質問

一杯戦った、しかし、センター逃げ切り型の生徒が多い中で、センター試験が難化した状況を打開できるまでに成長させることができなかった、ということ

をに入れていた英語は、非常に素晴らしい結果でした。理社も、ほぼ模試結果通りでしたが、そこまで少し強みであった国語・数学 Aの問題が難化したこと

が、ほとんど県内学生が占めるであろうと思われる福島大学に、他県からの学生が多数受験したことが、同大学合格者が少なかった原因でした。部活動に力を入

り、かなりのダメージを受けてしまいました。それでも、部活動で培った根性のある生徒達は、精神的に崩れず、二次に向かって残された時間を精一杯取り組んでいきました。東高の伝統である、全先生方が三年生の合格に向けてサポートする体制のおかげで、十分準備をしてそれぞれの志望大学へ受験にむ

かかったのです。東高の卒業式は、二次の結果が出る前なので進学校らしく本

当の卒業らしくはないのですが、

残念

ながら志望大学に合格できなかった生徒諸君も、東高スピリットで、これからの困難に必ずや雄々しく立ち向かってくれるものと信じています。

五 まとめ

三年間を通して、担任の先生方がチームを組んで三十一期生を見守り、全てお膳立てするのではなく、少しでも生徒達が自主的に行動できるように援助することを目指してきました。学年の先生方を評する言葉としては、「皆個人的だが、同じ方向を向いている。」が最も言い表していたように思われます。全ての先生方、保護者の方々、同窓生の方々に支えられ、三十一期生が巣立っていったことに對し、この場をお借りして御礼申し上げます。本当にありがとうございます。



全国大会出場報告

伝統の福島東高校陸上部

陸上競技部顧問 菅野 悟史

今年の四月に本校に赴任し、

同時に伝統ある陸上競技部の顧問を務めることになった。これまではOBとして外部から本校陸上部を支援・応援する立場であったが、いざ指導者としてこの場所に立つてみると楽しみでもあり、プレッシャーを感じたのも正直な感想である。本校陸上部は、昨年インターハイに出場した選手や県新人大会で優勝した選手など今年も活躍が期待される選手が多数、在籍しており、部員も四十三名を数え、いわゆる強豪校と呼ばれるチームである。このようなチームの指導者として自分に何ができるか自問自答しながらのスタートであった。

さて、陸上競技は五月に開催される県高校大会で六位以内に東北大会への出場権が与えられ、さらに六月に開催される東北大会で六位に入賞することで全国大会への出場権が与えられるシステムである。

まずは県大会であるが、怪我

をしている者なども多数あり、

不安を抱えた中での大会であった。

残念ながら、優勝者は出ることができなかったが、男子三名(八〇〇m・三〇〇〇m障害・

混成)、女子二名(一〇〇・二〇〇m・走高跳)、女子リレー

(四×一〇〇mR)で東北大会

への出場権を得ることができた。

優勝できずに悔し涙を流したり、

決勝で敗れ、あと一步のところ

で東北大会への出場権を逃したり、

悔しい思いをした者もたくさんいたが、私自身としては多くの事を学べた大会であった。

その後の東北大会では、リレー

でバトンを落としたり、怪我により途中棄権を余儀なくされた

り、悲喜こもももあつたが、何とか女子走り高跳びの梶田が全

国大会への切符を獲得してくれた。

彼女は昨年も全国大会に出

場し、決勝にまで進出している

選手であり、周りからも活躍が

期待されていた選手であった。

試合後に話してみると一番は

「ホッとしたり」との事であった。

ここまでの彼女のプレッシャー

は並大抵のものではなかったと思

つ。



いよいよ全国大会である。女子走高跳びの予選通過記録は

一m六七。梶田の自己記録は一

m六六であるが、今年のシーズン

ベストは一m六三。予選通過に

は自己記録の更新が不可欠であ

つた。現地入りしてから膝を痛め

るアクシデントが発生。テーピ

ングや痛み止めを服用し、何とか

競技することはできたが、万

全の状態では競技できず、残念な

がら、予選を通過することはでき

なかつた。決勝まで進めてあげ

られなかつたことに顧問の不

甲斐なさも感じたが、試合後の

彼女のすっきりした笑顔が今でも

印象に残っている。

これまで、毎日の練習を含め、

全ての事において勉強すること

ばかりであったが、就任一年目

にしてこのような経験をさせて

くれた部員達、支えてくれた保

護者の方々に感謝したい。また、

これまで厳しいトレーニングを

実践され、大会毎に指導してく

れた前顧問の穂積先生など、全

ての方々に感謝したい。今後、

私自身もさらに研鑽を重ね、東

高校陸上部の伝統をつないでい

けるように頑張りたいと思う。

インターハイ出場報告

男子テニス部顧問 朝倉 昭博

今年度のインターハイ県予選

では団体・個人シングルス・個人

ダブルスの三種目でのインター

ハイ出場を狙い、練習や練習試

合を行ってきました。団体戦で

は決勝まで勝ち上がり、善戦し

ましたが惜しくも敗退してしま

いました。個人ダブルスでは尾

形・紺野ペア、菅野・小川ペア

が惜しくも準々決勝で敗退して

しまいました。残る個人シング

ルスでは二年生菅野将大がベス

ト四に進出し、ベスト四の選手

によるリーグ戦を見事に制し優

勝することができました。お世

話になった方々にこの場を借り

ましてお礼を申し上げます。そ

して、個人戦ではありませんが、

残念ながら大会にすら出ることが

退した選手の分まで頑張ってくれた菅野将大はもちろんのこと、応援を含めた部員全員で勝ち取った勝利だと思います。なお、個人シングルスで六位に入った一年生の小川雄大の活躍もこれらに楽しみを覚えるものでした。

今年のインターハイは福岡県博多の森テニスコートで行われました。盛夏の福岡は千年に一度の暑さであると地元の方に聞きました。実際夜になっても熱帯夜が続いて、とても過ごしやすとはいえない状況でした。対戦相手もそうですが、暑さともいかに戦うかも重要なことでした。

試合当日は雨模様でさほど暑さを感じることはありませんでした。しかもインドアコートでの試合でした。対戦選手は滋賀県代表光泉高校の裨島選手でした。序盤のラリー戦は決して負けることはありませんでした。ただし、相手はミスをなかなかしてくれませんが、そこで菅野は焦れてリスクの高いショットでミスを重ね、結局一対六のスコアで敗戦してしまいました。相手があつたというよりも本人の冷静さがプレッシャーで押しつぶされてしまったようです。全国の舞台は厳しいもので

す。相手は県で一、二位になつた選手です。自分より弱いとは考えられません。それが故に先手を取りたいと考えてしまいいます。誰もが考えることです。その戦いの中でもいつも通りのプレーができる選手のみが上位に進出し、結果を残すことができるのです。現に第一シードの選手は初戦で敗戦しています。それほどシビアな世界ということもできるでしょう。本人も落胆はしていましたが、次の日から練習を再開しました。この悔しさを忘れずに来年につなげるために。指導者も学ばなければなりません。県を勝つことは通過点であつて、その先を見据えた指導をしていかなければならないということ。

菅野将大はこの後、国体出場、キャプテンとして新人戦県大会団体優勝、個人シングルス優勝を勝ち取りました。素晴らしい成果です。しかし、これはあくまで通過点です。この悔しさを晴らすためにはまた同じ舞台に立たなければ真の意味で悔しさを晴らすことはできないと本人も感じています。菅野はまだ来年があります。相手と戦い自分と戦い人間として選手として大きな成長を遂げてくれると思

甲子園の風に吹かれて

三年五組 今泉 翔太

の精神づくりや、実戦での勝負強さというのをつけるため努力しました。東北大会まで時間はあまりありませんでしたが、一日一日の練習が今まで以上のものに感じられました。

東北大会当日は、自信を持って臨む事が出来、ベスト四となる事が出来ました。東北大会の強豪校の雰囲気は、今までに味わった事のないものでした。

三年間の集大成である夏の大会に向けて、強豪高校の雰囲気に近づくように私生活から意識をして、生活を送っていました。夏の大会までの一カ月は凄く短いものでした。授業中までも野球の事を考えてしまうそんな日々でした。

夏の大会では、キャプテンを中心に選手全員で試合に臨みました。目標の甲子園にはあと少しというところで届きませんでしたが、ベスト四という素晴らしい結果だったと思います。その試合の度にヒーローが誕生する最高のチームでした。

甲子園の先導役として声がかかっていたのは、東北大会が終わって、平日の練習の時でした。最初は急だったので、驚いたと同時に嘘だと思っていました。夏の大会が終わわり、本番の一週



間前になって、行進の練習のために西宮高校に向かいました。この時になってやっと、行進するんだなと思うようになりました。練習では、西宮高校の先生方に優しく指導して頂きました。

入場行進の予行練習で初めて甲子園球場の中に入った時の空気がもの凄いい事を覚えています。その日を終えて、ホテルでは次の日の本番に向けて、シミュレーションをしていました。

入場行進当日の日、全国から集まった県の代表チームと共に、甲子園の球場に入った時に緊張が高まりました。そして、待ちに待った行進の時。球場全体が自分に覆いかぶさってくるような、圧力があり、心がつぶされたいまそうになりました。無



事に行進を終えて、開放感で一杯になっていました。

このような多くの経験を出来たのは周囲の支えがあった事と最高の仲間がいたからだだと思います。本当に幸せ者でした。

全国高文祭長崎大会(美術・工芸部門)に参加して

美術部顧問 片平 仁

七月三十日から八月二日の日程で全国高文祭の美術工芸部門に生徒引率教員として参加してきた。福島県内の参加枠は五名、晴れの出品・大会参加となった。福島県の美術教育は全国的に見てレベルが高い。美術系大学への進学者数は、圧倒的な数を誇る関東関西の都市部の都府県の下位の階層に属し、美術系進学塾

が県内に一校(郡山市)しかない県としては出色である。

全国高文祭への参加者は年一回実施される県高校生美術展への出品作品、約四〇〇点の中から五点前後が選ばれ決める仕組みだ。東高から選に入ったのは大友琴美(二年)の作品である。選出対象となった作品は「受験戦争」(一年次作品)という題のF三〇号の絵画である。うず高く積まれた参考書やテストの前にペンを背負った少女(東高の夏服を着ている)が仁王立ちしているという作品である。大友は、今回「弱小動物、ユトリペンギンの日常」という題のF五〇号の作品を全国展に出品した。自分たちを「ユトリペンギン」という名でやや自虐的にとらえ、その学園生活をユーモラスに描いた作品である。全国大会での評価も高く、全国高文連が毎年一回発行する文芸誌への掲載が決まった。また、この作品は今冬十二月の京都府高文連主催の展覧会への招待が決定している。

福島県の美術・工芸部門選手団(?)は、教員・生徒あわせて九名。三泊四日の日程で各種行事に参加した。美術工芸部門は展覧会と交流会そして作品講

評会がメインの行事であり、運動部の大会とは異なり試合をしてくるわけではない。が、パチパチの戦いがそこにある。アート&デザインを内向きでおとなしいものと思つたら大間違いである。作品が魅力あるものとして人前に立つことができるためには、技術的確かさはもとより、新しい何かがそこになければならない。新しさとは、世間的価値とのズレや対峙から始まる。それは簡単に言うつと世間とのケン力であると言つてよい。頼れるのは己一人。それは孤独で底が見えない戦いだ。展覧会場となったのは長崎港すぐそばの県立美術館。美しいデザインと凝った構成の豪華で洒落た建築の美術館である。展示総数約四〇〇点。展覧会場に入ると作品が放



つ熱気に頭がクラクラする。展示作品は玉石混淆である。このまま伸びて行つたら世界レベルになれそうな作品も、相変わらずの保守的作品もある。が、全国展レベルの作品はとにかく味が濃く、このまま牙を抜かれることなく真つ直ぐ伸びて欲しい、そんな感触の作品が多かった。

一方で、他県の引率教師たちと話をすると、全国的に美術の時間の削減や美術教師の減員などが進んでいることが常に話題となった。日本の高校教育界は感性を育てることに熱心でないことがわかる。東高のように、進学校でありながら十分な芸術の単位取得ができる学校は全国的にも少数派になってしまった。が、感性教育こそ、これからの社会を生き抜く上で鍵になつ

ていくのは疑いが無い。感性はアプリオリに人間に備わっているものではない。それはひ弱な植物のようなもの。手をかけて丁寧に育てないと枯れてしまう。ポスト産業社会に投げ入れられている私たちにとって、何が価値あるものであるのか、嗅ぎ分ける能力は何よりも大切である。毎日、大量の情報がネットやTVから垂れ流される。それら的大半のものはカスだと言いつつ問題はないと思つが、そう言い切る自分をどこで育てるのか、何によつてそれを育てるのか、そこが大きなポイントとなる。芸術教育がその大きな一翼を担うのは疑いが無い。が、全国の現状は…。美術館の作品を見な

平成25年度在校生支援事業

- 1. 文化部支援
 - ・吹奏楽部 50,000円
 - ・合唱部 50,000円
 - ・美術部 30,000円
 - ・ダンス部 20,000円
 - ・演劇部 20,000円
- 2. 在校生支援
 - ・野球応援バス代補助 800,000円
- 3. 全国大会激励金
 - ・テニス部(男女) 60,000円
 - ・陸上部 20,000円
 - ・美術部 20,000円
 - ・囲碁(個人参加) 20,000円



平成25年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	期生	氏名	期生
高橋和也	28期	近藤圭那子	28期
芳賀大二郎	28期	後藤芽衣	28期
栗原有美	28期	高橋菖太	28期
萩原香澄	28期	兼子大次郎	28期
猪又実里	28期	畑和徳	28期
斎藤圭佑	28期	吉田壯哉	28期
三浦崇悦	28期	笹村茂人	28期
高橋理央	28期		

がら、あるいは長崎の蒸し暑い日差しのもとで、そして平和公園でそんなことを考えた全国高文祭だった。

平成25年度 部活動報告

●運動部

野 球 部

第65回春季東北地区高等学校野球福島県大会 準優勝
 第65回春季東北地区高等学校野球福島県大会 準優勝
 第65回春季東北地区高等学校野球福島県大会 準優勝
 1回戦 福島東7 0 白河実業
 2回戦 福島東7 0 福島北
 準々決勝 福島東4 2 学法福島
 準決勝 福島東6 2 小高工業
 決 勝 福島東2 25 聖光学院
 準優勝

第60回春季東北地区高等学校野球大会(東北大会)
 2回戦 福島東6 3 利府
 準々決勝 福島東4 3 能代松陽
 準決勝 福島東1 6 盛大附属
 準優勝 第3位

第95回全国高等学校野球選手権福島大会
 2回戦 福島東7 4 小野
 3回戦 福島東5 3 郡山東
 4回戦 福島東11 2 田島
 準々決勝 福島東4 2 安達
 準決勝 福島東2 8 日大東北
 準優勝 ベスト4

第65回秋季東北地区高等学校野球福島県大会
 2回戦 福島東11 1 福島成蹊
 3回戦 福島東5 3 安達
 準決勝 福島東1 9 福島
 第65回秋季東北地区高等学校野球福島県大会
 2回戦 福島東4 8 郡山東
 秋季東北地区高等学校野球選手権大会
 2回戦 福島東4 3 安達
 3回戦 福島東2 1 聖光学院

サッカー部

準決勝 福島東2 7 学法福島
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 1回戦 福島東6 0 福島北
 2回戦 福島東7 0 福島西
 準決勝 福島東1 2 聖光
 代表決定戦
 福島東1 0 福島商
 福島県高等学校体育大会
 1回戦 福島東2 0 帝京安積
 2回戦(延長)
 福島東2 0 学法石川
 準々決勝 福島東0 1 富岡
 F1リーグ
 第1節 0 1 湯本
 第2節 7 1 郡山
 第3節 1 1 福島工
 第4節 1 0 相馬
 第5節 3 3 尚志
 第6節 2 1 聖光学院
 第7節 4 1 会津工
 第8節 1 2 湯本
 第9節 3 1 郡山
 第10節 1 2 福島工
 第11節 2 0 相馬
 第12節 4 3 尚志
 第13節 2 4 聖光学院
 第14節 4 1 会津工
 プリンスリーグ参入戦
 福島東4 3 (延長)
 羽黒(山形県代表)
 2014年度よりプリンスリーグ東北へ
 全国高等学校サッカー選手権福島県二次大会
 3回戦 福島東5 1 磐城
 4回戦 福島東3 0 郡山
 準々決勝(延長)

卓 球 部

東北新人大会 予選免除
 県新人大会 ベスト8
 福島東2 1 福島工
 準決勝 福島東0 1 富岡
 第3位
 個人ダブルス
 佐々木夏穂 3位
 菅野組 3位
 佐々木・菅野組 3位
 佐々木夏穂 7位
 宮 健太 13位
 上石 翼 14位
 菅野康徳 県大会出場
 女子
 学校対抗 3回戦 福島東0 3 橘
 代表決定戦
 福島東1 3 本宮
 福島県高等学校体育大会
 男子
 学校対抗 2回戦 福島東0 3 白河
 個人ダブルス
 佐々木 菅野組 3回戦敗退
 個人シングルス
 佐々木夏穂 3回戦敗退
 宮 健太 3回戦敗退
 上石 翼 3回戦敗退
 菅野康徳 2回戦敗退
 福島県総合体育大会東北地区大会
 男子
 学校対抗

女子

2回戦 福島東3 0 安達東
 3回戦 福島東3 0 二本松工業
 4回戦 福島東1 3 聖光学院
 第4位(県大会出場)
 個人シングルス
 佐々木夏穂 11位
 松浦瑛児 27位
 学校対抗
 1回戦 福島東3 0 本宮
 2回戦 福島東0 3 成蹊
 代表決定戦
 福島東0 3 安達
 福島県総合体育大会
 男子
 団体
 2回戦 福島東3 1 勿来工業
 3回戦 福島東3 0 小高工業
 4回戦 福島東0 3 帝京安積
 (ベスト8)
 個人
 佐々木夏穂 3回戦敗退
 松浦瑛児 2回戦敗退
 全日本選手権大会福島県大会
 東北地区大会(個人戦・ダブルスのみ)
 男子
 シングルス
 佐々木夏穂、菅野康徳、松浦瑛児、岩谷樹弥
 (4名ともベスト16、県大会出場)
 ダブルス
 菅野康徳・松浦瑛児
 (ベスト8、県大会出場)
 女子
 ダブルス
 齋藤直美・浅川詩央理
 (県大会出場)
 全日本選手権大会福島県大会(個人戦・ダブルスのみ)
 男子
 シングルス

男子

菅野康徳 4回戦敗退
 佐々木夏穂 3回戦敗退
 松浦瑛児 1回戦敗退
 岩谷樹弥 怪我で欠場、渡邊有徳代理で出場、1回戦敗退
 ダブルス
 菅野康徳・松浦瑛児
 2回戦敗退
 佐々木夏穂・遠藤至(郡山商業)
 2回戦敗退
 女子
 ダブルス
 齋藤直美・浅川詩央理
 1回戦敗退
 福島県高等学校新人大会東北地区大会
 男子
 学校対抗
 2回戦 福島東3 0 安達東
 福島東3 2 二本松工業
 4回戦 福島東0 3 福島工業
 第5位(県大会出場)
 個人ダブルス
 佐々木・菅野組 5位
 個人シングルス
 佐々木夏穂 13位
 菅野康徳 17位
 岩谷樹弥 18位
 松浦瑛児 21位
 長島寛幸 24位
 石塚昂平 28位
 女子
 学校対抗
 2回戦 福島東3 1 福島商業
 3回戦 福島東0 3 成蹊
 第5位(県大会出場)
 個人シングルス
 佐藤美咲 20位

福島県高等学校新人大会
 男子
 学校対抗
 1回戦 福島東2 3安積
 個人ダブルス
 佐々木・菅野組 2回戦敗退
 個人シングルス
 佐々木夏穂 4回戦敗退
 菅野康徳 4回戦敗退
 岩谷樹弥 4回戦敗退
 松浦瑛児 3回戦敗退
 長島寛幸 1回戦敗退
 石塚昂平 2回戦敗退
 女子
 学校対抗
 1回戦 福島東2 3平商業
 個人シングルス
 佐藤美咲 1回戦敗退
 陸上競技部
 福島県高等学校体育大会
 男子
 800m 舟木裕大 6位
 3000m障害 高橋悠馬 4位
 混成八種競技 地引 廉 2位
 女子
 100m 齋藤歩夏 3位
 200m 齋藤歩夏 3位
 走高跳 梶田光里 2位
 4x100mリレー 3位
 齋藤歩夏・山田綾香・石井瑛実子・菅野杏奈
 東北高等学校陸上大会
 女子
 走高跳 梶田光里 5位
 全国インターハイ出場
 全国高等学校総合体育大会
 女子
 走高跳 梶田光里 予選敗退
 福島県高等学校新人大会
 男子
 混成八種競技 関 尚之 3位

女子
 800m 菅野杏奈 2位
 1500m 菅野鈴菜 2位
 3000m 菅野鈴菜 4位
 4x400mリレー 6位
 石井瑛実子・菅野杏奈・中村佳世子・菅野鈴菜
 東北高等学校新人大会
 女子
 800m 菅野杏奈 7位
 福島県高等学校駅伝競走大会
 男子 9位 2時間20分11秒
 女子 11位 1時間22分34秒
 バスケケットボール部
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子
 予選ブロック
 福島東84 54保原
 福島東72 67福島成蹊
 1位トーナメント
 福島東54 80福島商業
 福島東49 56福島工 第3位
 女子
 予選ブロック
 福島東94 48保原
 福島東58 65福島成蹊
 代表決定トーナメント
 福島東72 30福島明成
 福島東85 42安達
 福島県高等学校体育大会
 男子
 1回戦 福島東66 44白河旭
 2回戦 福島東69 52喜多方
 準決勝 福島東61 69若松商
 シード順位決定戦
 福島東48 57福島工 第3位
 女子
 1回戦 福島東56 62光南
 福島県総合体育大会東北地区

大会
 男子
 1回戦 福島東106 36保原
 2回戦 福島東86 55福島明成
 準決勝 福島東57 92福島東稜
 3位決定戦
 福島東68 62福島成蹊
 女子
 1回戦 福島東96 33福島明成
 2回戦 福島東54 75福島商
 福島県総合体育大会
 男子
 1回戦 福島東51 63日大東北
 福島県選抜高校バスケットボール選手権大会東北地区大会
 男子
 予選ブロック
 福島東113 38福島北
 福島東47 73福島東稜
 県大会出場決定トーナメント
 福島東92 43学法福島
 福島東49 57福島南
 福島東102 47二本松工
 女子
 予選ブロック
 福島東58 67福島成蹊
 福島東82 56保原
 県大会出場決定トーナメント
 福島東94 55安達
 福島東82 37本宮
 福島県選抜高校バスケットボール選手権大会
 男子
 1回戦 福島東104 59会津
 2回戦 福島東58 62曹天章
 女子
 1回戦 福島東69 91葵
 福島県高等学校新人大会東北地区大会
 男子
 予選トーナメント
 福島東147 6
 福島東51 54福島

柔道部
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子団体 第4位
 予選リーグ
 福島東2 2福島明成
 福島東0 5聖光学院
 福島東3 2福島南
 2勝1敗
 1~4位決定戦
 福島東0 3福島工業
 福島東1 3保原
 男子個人
 100kg超級第2位 原 悠斗
 100kg超級第5位 佐藤浩太郎
 90kg級第1位 唯木 翔
 90kg級第6位 安齋拓真
 73kg級第4位 渡邊龍哉
 73kg級第7位 渡邊雅也
 福島県高等学校体育大会
 男子団体
 2回戦 福島東4 1相馬東
 3回戦 福島東2 3若松商業
 ベスト16
 男子個人
 90kg級 唯木 翔
 3回戦敗退 ベスト8
 100kg超級 原 悠斗
 2回戦敗退
 100kg級 佐藤浩太郎
 90kg級 安齋拓真
 73kg級 渡邊龍哉、渡邊雅也

1回戦敗退
 福島県総合体育大会東北地区大会
 少年男子
 次鋒の部第4位 渡邊龍哉
 中堅の部第1位 唯木 翔
 副将の部第6位 佐藤浩太郎
 大将の部第7位 原 悠斗
 福島県総合体育大会
 福島県高等学校校新人体育大会
 東北地区大会
 男子団体 第3位
 予選リーグ
 福島東4 1福島南
 福島東4 1保原
 福島東1 4福島工業
 2勝1敗
 1~4位決定戦
 福島東1 4聖光学院
 福島東4 1二本松工業
 男子個人
 90kg級第1位 唯木 翔
 100kg超級第3位 原 悠斗
 福島県高等学校新人大会
 男子団体
 予選リーグ 2勝
 3校リーグ
 福島東5 0修明
 福島東3 2好間
 準々決勝
 福島東0 5田村
 ベスト8
 全国高等学校柔道選手権大会
 福島県大会出場
 男子個人
 90kg級 唯木 翔
 2回戦敗退
 100kg超級 原 悠斗
 1回戦敗退
 全国高等学校柔道選手権大会
 福島県大会
 男子団体
 1回戦 福島東対岩瀬農業高

校
2人残して勝ち
準々決勝 福島東対昌平高校
3人残して負け ベスト8

剣道部
福島県高等学校体育大会東北
地区大会
男子団体
2回戦 福島東0 3安達
男子個人
3回戦進出 窪田龍一
女子個人
ベスト16 一條杏名

福島県高等学校体育大会
男子団体
1回戦 福島東0 1好間
女子個人
一條杏名 一回戦敗退

福島県総合体育大会東北地区
大会
男子団体 予選敗退
女子団体(相馬高校との合同)
代表決定戦敗退

福島県高校新人大会東北地区
大会
男子団体 予選突破
県大会出場権獲得
女子個人 一條杏名
県大会出場権獲得

福島県高等学校新人体育大会
男子団体
1回戦 福島東1 2平工業
女子個人 一條杏名
1回戦勝利、2回戦敗退

福島県高等学校選抜優勝大会
東北地区大会
男子 予選敗退

弓道部
福島県高等学校体育大会東北
地区大会
男子団体 2位
佐藤 隼、陸 智志、伊藤

佐藤 隼、陸 智志、伊藤

佑樹、佐藤 蛭、坪井 匠
大河内翔伊、西垣陽平
男子個人
5位 佐藤 隼
県大会出場 大河内尚弥
女子個人
3位 角田真央
県大会出場 菱沼優紀

福島県高等学校体育大会
男子団体 3位
佐藤 隼、大河内翔伊、西
垣陽平、伊藤佑樹、坪井
匠、佐藤 蛭、陸 智志

福島県総合体育大会東北地区
大会
男子団体 2位
佐藤 隼、伊藤佑樹、坪井
匠

男子個人
4位 坪井 匠
5位 石井 輝
女子個人 4位 荒明由希
福島県高等学校新人大会東北
地区大会
男子団体 1位
伊藤佑樹、石井 輝、武藤
優輝、坪井 匠、高橋 慧

佐藤 隼、鈴木陽太
男子個人
1位 伊藤佑樹
3位 坪井 匠
6位 高橋 慧

女子個人 県大会出場
鈴木知夏、大堀倫子、菅野
初音、荒明由希、菱沼優紀、
角田真央、手代木和
福島県高等学校新人大会
男子団体 2位
伊藤佑樹、石井 輝、佐藤
隼、坪井 匠、高橋 慧、
古山拓末、武藤優輝

男子個人
3位 伊藤佑樹

伊藤佑樹

5位 高橋 慧
女子個人 4位 荒明由希
東日本大会福島県予選会
男子団体 3位
女子団体 3位
バレーボール部
福島県高等学校体育大会東北
地区大会
男子
予選リーグ
福島東2 1福島西
決勝リーグ
福島東2 0福島工業
福島東2 2福島商業
福島東2 0福島
福島東1 2聖光学院
女子
予選ブロック
福島東2 1福島北
福島東2 0東陵
福島東1 2安達

順位決定リーグ
福島東0 2聖光
福島東2 0福島
福島東2 1福島南
福島東0 2橋
福島東0 2保原
15チーム中第5位 県大会出場
福島県高等学校体育大会
男子
2回戦 福島東2 1磐城
3回戦 福島東0 2郡山北工
女子
1回戦 福島東2 0船引
2回戦 福島東0 2磐城一
福島県総合体育大会東北地区
大会
男子
予選リーグ
福島東2 0福島
決勝トーナメント

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

1回戦 福島東2 0福島明成
準決勝
福島東0 2福島商業
福島東2 0福島
第3位決定戦
福島東2 1福島西
11チーム中第3位
女子
予選ブロック
福島東0 2福島西
福島東2 0東陵
福島東1 2福島南
本宮市6人制バレーボール総
合選手権大会
女子
東北地区高等学校バレーボ
ール秋季選手権大会
男子
出場全チームとの1セット総
当たり戦を行い、8勝0敗
第1位
女子
出場全チームとの1セット総
当たり戦を行い、11勝2敗
14チーム中第3位
福島県高等学校新人大会東北
地区大会
男子
予選リーグ
福島東2 0福島明成
上位リーグ
福島東2 0福島西
福島東2 1福島工業
福島東2 0福島
福島東0 2福島商業
11チーム中第2位
女子
予選ブロック
福島東2 0東陵
福島東2 0福島西
福島東1 2保原

順位決定リーグ
福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 0福島
福島東1 2保原

福島東2 1福島南
福島東0 2安達
順位決定トーナメント
福島東2 0福島北
福島東1 2保原
14チーム中第6位 県大会出場
福島県高等学校新人体育大会
東北地区高等学校バレーボ
ール春季選手権大会
バドミントン部
福島県高等学校体育大会東北
地区大会
男子ダブルス
三津間・橋本組 県大会出場
男子シングルス
女子団体戦 県大会出場
女子ダブルス
小椋・鈴木組 ベスト8
青山・齋藤組 ベスト8
青山 菜、遊佐公美
福島県高等学校体育大会
女子ダブルス
青山・齋藤組 県大会出場
女子シングルス
青山 菜、遊佐公美
福島県高等学校新人大会東北
地区大会
個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8
福島県高等学校新人大会
女子団体戦 ベスト16

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

個人戦シングルス
遠藤淳平 県大会出場
女子団体戦 第3位
個人戦ダブルス
青山・齋藤組 ベスト8
個人戦シングルス
青山 菜 ベスト8

ハンドボール部

福島県春季ハンドボール選手権大会
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 2回戦 福島東26 27福島商
 敗者戦 福島東32 17福島北
 敗者戦 福島東28 17福島工
 福島県高等学校体育大会
 1回戦 福島東33 11尚志
 2回戦 福島東15 11いわき総合
 3回戦 福島東21 28聖光学院
 福島県総合体育大会東北地区大会
 1回戦 福島東36 14橘
 2回戦 福島東28 15福島西
 準決勝 福島東25 23福島商
 決勝 福島東21 30聖光学院
 11チーム中2位 準優勝
 福島県総合体育大会
 1回戦 福島東38 7尚志
 2回戦 福島東20 32学法石川
 福島県高等学校新人大会東北地区大会
 2回戦 福島東28 16福島工
 準決勝 福島東29 15本宮
 決勝 福島東21 29聖光学院
 11チーム中2位 準優勝
 福島県高等学校新人大会
 2回戦 福島東40 19福島
 3回戦 福島東22 21福島工業
 準決勝 福島東13 35学法石川
 第3位
 ソフトボール部
 第35回福島県高等学校男子春季選抜ソフトボール大会
 1回戦 福島東3 1安積黎明
 準決勝 福島東0 4郡山北工
 第3位
 福島県高等学校体育大会東北

地区大会

福島東13 3福島
 (4回コールド) 第1位
 福島県高等学校体育大会
 予選リーグ
 福島東6 1いわき秀英
 福島東0 7郡山北工
 福島東10 3小高工
 (5回コールド)
 第2位通過
 準決勝 福島東3 1須賀川
 決勝 福島東1 7郡山北工
 準優勝
 福島県総合体育大会東北地区大会
 福島東9 2福島
 (5回コールド) 第1位
 福島県総合体育大会
 1回戦 福島東7 0安積黎明
 2回戦 福島東12 2小高工業
 (5回コールド)
 (4回コールド)
 決勝 福島東2 1郡山北工
 優勝
 福島県高等学校新人体育大会
 東北地区大会
 福島東13 0福島 第1位
 福島県高等学校新人体育大会
 東北地区大会
 予選リーグ
 福島東8 1安積黎明
 (5回コールド)
 福島東7 4相馬
 第1位通過
 準決勝 福島東7 6郡山北工
 決勝 福島東1 5相馬
 準優勝 東北選抜大会出場
 東北高等学校ソフトボール選抜大会(青森県東北町)
 1回戦 福島東11 4五所川原農業
 準決勝 福島東1 3南陽
 第3位

テニス部

東北ジュニアダブルス
 選手権大会
 男子
 【18歳以下】
 優勝 尾形佳介・紺野晏利ペア
 女子
 【18歳以下】
 優勝 六戸真穂・阿部紗良沙ペア
 3位 菅野千明・大川原結花ペア
 福島県春季ジュニアシングルス選手権大会東北地区大会
 男子
 【18歳以下】
 2位 紺野晏利
 福島県春季ジュニアダブルス
 テニス選手権大会
 男子
 【18歳以下】
 ベスト8 尾形佳介・紺野晏利ペア
 優勝 菅野将大・小川雄大ペア
 福島県春季ジュニアシングルス
 テニス選手権大会
 男子
 【16歳以下】
 優勝 菅野将大
 2位 小川雄大
 福島県高等学校体育大会東北地区大会
 男子
 【学校対抗】 優勝
 【シングルス】
 2位 菅野将大
 3位 小川雄大
 【ダブルス】
 優勝 尾形佳介・紺野晏利ペア
 女子
 【18歳以下】
 優勝 六戸真穂・阿部紗良沙ペア
 3位 菅野千明・大川原結花ペア
 福島県高等学校体育大会
 男子
 【学校対抗】 2位
 【シングルス】
 優勝 菅野将大
 6位 小川雄大
 【ダブルス】
 ベスト8 菅野将大・小川雄大ペア
 尾形佳介・紺野晏利ペア
 女子
 【学校対抗】 ベスト8
 【シングルス】
 3位 高橋誠果
 【ダブルス】
 ベスト8 六戸真穂・阿部紗良沙ペア
 東北高校テニス選手権大会
 男子
 【学校対抗】 2回戦敗退
 【シングルス】
 菅野将大 1回戦敗退
 女子
 【シングルス】
 ベスト4 高橋誠果
 福島県総合体育大会東北地区大会
 男子
 【部シングルス】
 優勝 菅野将大
 2位 小川雄大
 【部ダブルス】
 優勝 菅野将大・小川雄大ペア
 3位 菅野将大・小川雄大ペア

佐久間瑠・渡邊隆一ペア

【部シングルス】
 2位 玉手光次
 3位 高橋和也
 【部ダブルス】
 3位 佐藤洸希・佐藤敦史ペア
 優勝 大川原結花・花田恭子ペア
 3位 野地未紗子・柴田真夕ペア
 【部シングルス】
 2位 佐藤千尋
 3位 豊島紗月
 福島県総合体育大会
 男子
 【部シングルス】
 優勝 菅野将大
 2位 小川雄大
 【部ダブルス】
 2位 菅野将大・小川雄大ペア
 【部シングルス】
 5位 玉手光次
 女子
 【部ダブルス】
 ベスト16 大川原結花・花田恭子ペア
 東北ジュニアテニス選手権大会
 男子
 【18歳以下シングルス】
 【18歳以下ダブルス】
 【16歳以下シングルス】
 ベスト8 菅野将大
 ベスト4 菅野将大・小川雄大ペア
 全国大会出場
 女子
 【18歳以下シングルス】

- ベスト4 高橋誠果 全国大会出場
- 東北ジュニアシングルステニス選手権大会
- 男子 3位 佐久間瑠
- 女子 ベスト8 花田恭子
- 福島県高等学校新人体育大会 東北地区大会
- 男子 【学校対抗】優勝
- 【シングルス】
 - 優勝 菅野将大
 - 2位 小川雄大
- 女子 【団体】3位
- 【シングルス】
 - ベスト8 花田恭子
- 福島県高校新人テニス選手権大会
- 男子 【学校対抗】優勝
- 【シングルス】
 - 優勝 菅野将大
 - 2位 小川雄大
- 女子 【団体】ベスト8
- 東北選抜高等学校テニス選手権大会
- 男子 【学校対抗】ベスト8
- 東北秋季ジュニアテニス選手権大会
- 男子 【ダブルス】
 - 優勝 菅野将大・小川雄大ペア
 - 2位 佐久間瑠・渡邊隆二ペア
- 女子 【ダブルス】
 - 3位

- ### 水泳部
- 大川原結花・花田恭子ペア
- 福島県高等学校体育大会東北地区予選
- 男子総合 3位
- 女子総合 5位
- 400M自由形1位・1500M自由形1位 三瓶悠斗
- 100M平泳ぎ3位 諸橋優太
- 400Mリレー3位(瀬田川隼平・清野拓海・諸橋優太・三瓶悠斗)
- 400Mメドレーリレー(三瓶悠斗・諸橋優太・清野拓海・瀬田川隼平)
- 50M自由形2位 薄 園香
- 100M自由形2位 薄 園香
- 200M自由形2位 加藤柚香
- 400M自由形2位 穴戸朱里
- 福島県高等学校体育大会水泳競技大会
- 1500M自由形1位・400M自由形1位 三瓶悠斗
- 50M自由形7位 薄 園香
- 東北高等学校選手権大会
- 400M自由形5位 三瓶悠斗
- ### 山岳部
- 福島県高等学校体育大会東北地区登山大会
- 吾妻連峰：5月9日～11日
- 男子12名参加(Aパーティー4名、Bパーティー4名、Cパーティー4名)
- 福島県高等学校登山大会(吾妻山系：5月29日～6月1日)
- 男子13名参加(Aパーティー4名、Bパーティー4名、Cパーティー5名)
- 優秀パーティ(全国大会出場候補) Aパーティー
- 東北地区高等学校新人登山大会(西吾妻山系：9月5日～7日)

- ### 吹奏楽部
- 男子5名参加 2年生は修学旅行のため不参加
- 福島県高等学校新人登山大会(浅草岳(只見町)：9月26日～28日)
- 男子12名参加
- ### ダンス部
- 福島県高等学校第6回ダンス発表会
- 福島わらじまつり ダンシングソーダナイト
- ### 文化部
- 吹奏楽部
- 吹奏楽コンクール東北支部大会
- 高校一部 金賞
- 福島県吹奏楽コンクール 高校一部 銀賞
- 福島県アンサンブルコンテスト東北支部大会
- サクソフオーン八重奏 金賞
- クラリネット八重奏 金賞
- 混合五重奏 銀賞
- 第30回定期演奏会 5月4日
- 県文化センター
- 東北地区音楽祭 5月31日
- 福島市音楽堂
- 県音楽祭 6月21日 喜多方プラザ
- ### 合唱部
- NHK全国学校音楽コンクール福島県大会
- 優秀賞
- 福島県合唱コンクール 高校部門 銀賞
- 全日本合唱コンクール東北支部大会
- 高校B部門(32名以上) 金賞
- 第11回定期演奏会
- 東北支部高等学校音楽祭
- 福島県高等学校音楽学習会

- ### 美術部
- 第6回声楽アンサンブルコンテスト全国大会
- Aグループ 金賞
- (グランプリ大会出場)
- Bグループ 銅賞
- 福島県総合美術展覧会(県展)
- 青少年美術奨励賞・県文化センター館長賞 三瓶 凛
- 青少年美術奨励賞・県教育長賞 高橋史華
- 平成25年度 全国高文祭美術展(出品) 大友琴美
- 平成25年度 京都高文連派遣事業(招待) 大友琴美
- 平成25年度 パソコン甲子園1枚の絵部門
- 3DCG賞 高橋史華
- 桜美展(福島市民ギャラリー)
- ### 演劇部
- 東北地区高等学校演劇連盟春の発表会
- 東北地区高等学校演劇連盟秋のコンクール
- ### 科学部
- 平成25年度生徒理科研究発表会東北地区大会
- 平成25年度県高文連生徒研究発表会
- ### 書道部
- 福島県たなばた展
- 銀河賞 遠藤万輝
- 奨励賞 佐藤麻菜
- 福島県高等学校書道展
- 優秀賞 遠藤万輝
- 三浦恵美
- 八島麗奈
- 佐藤麻菜
- ### 写真部
- 平成25年度東北高等学校写真展
- 放送委員会
- NHK杯全国高校放送コンテ

生徒会

東校に入学して、早三年が経とうとしている。私は、仲間のために何か一つでも役に立つことがしたいと思い、生徒会に入つたが、逆に私が得たことの方がとても大きかった。特に思い出深いのは、何と言つても私が二年生の時に開催された三年に一度の公開文化祭だ。学校内だけで行う非公開文化祭とは異なり、公開文化祭はスケールが大きく、企画の立案から当日の作業までとても大変だった。しかし、それだけに達成感も大きく、先生も生徒も一丸となつて一つの目標に向かつてやり抜く事の素晴らしさ、東校の底力を実感することができた。運営が上手くい

部活動を終えて

平成25年度(32期生)

スト東北地区大会
ラジオドキュメント部門
優秀一席
創作ラジオドラマ部門
優秀賞
アナウンス部門 出場
優秀二席
朗読部門 出場
NHK杯全国高校放送コンテスト福島県大会
ラジオドキュメント部門
佳作
創作ラジオドラマ部門
佳作
全国高等学校総合文化祭放送部門福島県大会
ラジオキャンペーン部門
テレビキャンペーン部門

かず、苦しんだ時もあつたが、生徒会の仲間やクラスの友達に支えられ、成功することができた。本当に感謝している。私は卒業後もこの気持ちを忘れずに仲間のために何ができるのかを考え生きて行こうと思う。最後になりましたが、今まで生徒会を支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

(齋藤真帆)

弓道部

私は弓道部での三年間を通して「礼にはじまり礼におわる」という礼儀の大切さをあらためて実感するとともに、精神的に成長することができました。

練習試合や大会の団体戦の中では、近差で勝敗が決まってしまうくらい楽しい思いをすることが多くありました。しかし、そんな経験を繰り返すなかで友人と問題を指摘し合い、互いに切磋琢磨することができました。そこから生まれる向上心、そして練習の中で得られた達成感や精神面の成長の上で欠かせないものでした。また、最近の日常生活においてこの向上心は役立っており、自分の苦手としている数学の確率や証明の問題にも進んで取り組めるようになりました。

陸上競技部

私が三年間の競技生活を送って学んだことは、「考えること」です。中学までは、あまり考えずに必死に走ればある程度は結

果は出ました。しかし、高校では通用しませんでした。僕は一年生の夏頃に先輩方から考えることの大切さを教えてもらい、練習に取り組みました。その結果、その年の自分の目標としていた記録を出すことができませんでした。それ以来、何事も考えて取り組むようにしています。足の着き方から腕の振り方、姿勢など細かい部分から考えるのは大変ですが、そういった意識が変わると、見える世界が変わってきます。それが楽しくて今でも続けられています。この三年間でやってきたことを一つも無駄にせず、大学でも続けていきたいです。

(舟木裕大)

剣道部

私が部活動を通して得たことは、目上の人に対する言葉づかいやふるまい方などの礼儀もそうですが一番は精神的な成長です。先輩方からの厳しい指導には心が折れそうになったことが何度もありました。しかし、その厳しい指導のおかげで技術的な成長だけでなく、つらいことにも耐える強い心を得ることが出来たと思います。試合などで悔しい思いをすることがたくさんありましたが、その度に、向上心が強くなっていき、部活動だけでなく勉強においても向上心を持って取り組めるようになりました。

私がこれらのことを得ることが出来たのは、途中で辞めることなく最後まで続けてきたからだと思えます。「継続は力なり」とよく耳にしますが、まさにその通りだと感じました。部活動

水泳部

私たち水泳部は各々の目標を掲げて日々努力してきました。私は自分の目標を引退までに達成できませんでしたが、この水泳部としての三年間は私の努力の積み重ねの大切さを教えてくれました。

目標に向けて毎日休まず、辛い練習を続けていても結果として現れないということは多くありました。ですが、それでも日々の練習をただやるのではなく、自分の欠点を見つけ、それを克服するという積み重ねを続けたことで、私は最後の高体連で目標には及びませんでした。納得できる結果で引退することができました。この経験が今後の自分を成長させる糧になれば良いと思います。

(山岸勇士郎)

ハンドボール部

最後の大会が終わわり、今までのことを思い返しました。私が見てきた部長たちは、部員をリードし頼りになる存在でした。それがあって、自分が突然部長になり、頼れる先輩もいなくなり、初めは不安と言つより何も考えることができませんでした。その中で最初の大会に挑みましたが結果は県大会初戦敗退と悔しい

ものでした。これから、チームをどう強化していくか、練習はどうするか、など様々なことを考えつつ、自分たちに合ったチーム作りをしました。そして、新人戦県大会で準優勝することができました。でも、すべてが順風満帆だったのではなく、多くの困難がありました。それを助けてくれたのは、顧問の先生方や両親、マネージャー、部員といった自分に関わる全ての人です。部長を務めて、人とのつながり、助け合いの大切さについて学ぶことができました。

男子バレーボール部

(菅野健太郎)

私は男子バレーボール部に入部して三年間、色々な事を学びました。はじめ、入学したての頃は先輩達から主に上下関係の厳しさや礼儀を教えてもらい、私は改めて社会で生きて行くための大切な事を学ぶことができました。

二年生になってからは、部長に任命され、勉強、部活、部長の仕事と、とても忙しい毎日でした。ですがこの苦労もめつたに経験できない事、きつと将来に役に立つと思っています。

そこで、顧問の先生が一番よく仰っていたのは「明るく、楽しいバレーをしまさい。」という言葉でした。活気良く、明るくプレーすることで、より良いパフォーマンスが出来る、私にとってこの教えは、一番の教訓とも言える事です。今まで私は緊張した中でプレーしか考えていなかったので、とても衝撃的でした。私は、スポーツは

女子バレーボール部

(丹治恵悟)

約九年間のバレー人生の中で高校バレーがこれほど自分の技術や精神面において成長させてくれるものとは思いません。

三十二期の女子バレー部は三年間顧問の先生が代わるという経験をした。そのなかで自分たちのバレーを確立し、試合で勝つために全員で努力をした。仲間を信頼する気持ち、努力をすれば報われることなど様々なことを学ぶことができた。このメンバリーがなにかここまで来れなかったと思う。本当に感謝しています。ありがとうございました。そして、何度も厳しいことを言つたのについてきてくれた後輩たち、ありがとう。愛してるよ。

最後に、私たちを指導して下さった先生方、影で支えてくれた保護者の皆様、本当にありがとうございました。これからも東高バレー部をよろしくお願ひします。本当にお世話になりました。

(土屋友菜)

卓球部

あの東日本大震災から始まった私達の高校生活、そして部活動。厳しい練習やなかなか上達しないのを苦しい時もありました。しかしその中で団体県ベスト8になるなど試合に勝つ喜びを得られたことが一番の収穫です。またその他に卓球部の活動を通して学んだ事が二つあります。

一つは自分が何をすべきかという事です。私達は日々の練習

内容を各自決めています。自分の弱点は何か、勝つために何をすれば良いかを常に考えています。

もう一つは仲間と支えあうことです。練習しても上達しないときは仲間同士で教え合ったり、仲間のために全力で応援したりと支えあうことの大切さを教えてくれました。

これら二つの事はこれからの人生の中で必要になる力だと思います。部活が教えてくれたこの力を胸に刻み、この先頑張りたいです。(鈴木 聡)

ソフトボール部

私はソフトボール部に入ってから様々な仲間と先生に出会えた事に本当に感謝しています。特に感謝しているのは次の二つです。一つ目は、顧問の先生からの教訓でした。先生は厳しかったですが、それは、自分に欠けている部分が多いのだと後で気づきました。最後まで改善することができませんでしたが、このことは社会に出てからも大事な事だということを感じて頂きました。また世界を広く長い目で見るという事も学ばせて頂きました。

もう一つは、すばらしい仲間によって最後までやり遂げることの大切さを気づかせてもらいました。また、自分がキャプテンとして行き詰まった時には、仲間からの確かなアドバイスももらい、人間としてもキャプテンとしても成長させてもらいました。ソフトボール部に入部して良かったと心から思っています。

(横岡崇希)

柔道部

僕は中学校の時は野球部で、高校から柔道を始めました。その動機は軽く、新しいことをやってみようという思いでした。始めの頃は何もかも分からず、練習についていくのが精一杯で先生や先輩方にとっても迷惑をかけたと思います。初めて新人戦に出たとき、一勝もできず悔しくて泣いたのをよく覚えています。学年が上がって先輩になり、先輩ができたときも、先輩は僕よりずっと上手だったので最初の頃は戸惑いもありましたが何とか先輩としてやっていけたと思います。そして柔道に怪我はつきものなのですが、僕は怪我ばかりしてあまりにも練習できず試合でも思うような結果が出ませんでした。そのような辛い中でも先生や周りの仲間を支えられて続けられました。部活動を通して学んだことは、たとえ結果が出なくても、努力したことは自分にとってプラスになるといふことです。

(安齋拓真)

男子バドミントン部

バドミントン部で過ごした時間は、私にとってかけがえのない大切な時間です。特に顧問の富良野、宮島両先生には、プレイヤーとしてだけでなく、社会に生きる一人一人の人間として必要なことを指導していただき、大変感謝しています。バドミントンは個人競技ですが、「福島東」という一つのチームとして練習や試合に臨むことでより力がつき、「コミュニケーション

ンを重ねながら切磋琢磨していくことで一人一人の成長へとつなげることができました。私が部長を務めることができただけでなく、周りのサポートやアドバイスの支えがあったからこそです。バドミントン部のみんな、本当に本当にありがと。みんなとの思い出はずっと忘れることのない宝物です。

(菅野翔太)

男子テニス部

僕達三十二期テニス部は色々な面で本当に個性豊かな仲間達だった。そんな仲間達と過ごした約三年間は充実したものであり、本当にあつという間だったように感じる。

男子テニス部での活動を通して学び、成長したと思うことはたくさんある。その中でも特に学んだことは、仲間達と目標、夢に対して真剣に向き合うことの大切さだ。それぞれの目標にも、同じ夢にも全員で支え合い、切磋琢磨しながら向かっていくことで一歩ずつ成長していくことができた。練習が辛くても、思うように結果が出ず落ちこんでもここまでやってこれたのは、まざれもなく夢に向かって共に成長していった仲間がいたからだ。僕は本当にこの仲間たちとやってこれたことを誇りに思う。

最後に、熱心に指導していただいた朝倉先生、梅宮先生、ありがとございました。後輩たち、こんな部長についてきてくれてありがと。そして三十二期の仲間達、大好きだ。

(紺野晏利)

女子テニス部

部活動で学んだことと言つとたくさんあります。部活動を終えての今の想いを書きます。まず、同学年に四人といつた少ない人数ながらも三年間ずっと支えてくれたねーさん、ともいで、さらびーに感謝を伝えたいです。楽しいのはもちろん、厳しい言葉もちゃんと聞いてくれてその度、自分も成長することができました。

次に、頼りがいのない部長だったかもしれませんがついてきてくれた二年生、一年生に感謝しています。テニス部は特に遠征の多い部活ですが、その遠征ほど楽しいものはありませんでした。Mさんとちやんのコンビには腹筋が鍛えられました。最後に、遠征や練習試合、大会などの計画をたててくださった顧問の先生に感謝します。

(六戸真穂)

サッカー部

私が三年間サッカー部に所属し、大切に感じた事は、何事においても「負けない」という事です。リーグ戦やトーナメント戦においても優勝するチームというのは最後まで負けないチームです。チームとして負けない事は大切だと思います。しかしそれ以前に大事な事は個人個人が負けない事です。相手との一対一に負けないという事だけではありません。その前に自分自身に負けない精神力がなくてはなりません。それは部活の練習だけでは鍛えられません。常にきりつめられている文武両道の福島

東高生だからこそ鍛えられる事が出来るのだと思います。だから先輩には他の高校にはないこの武器に誇りをもつてサッカー部の歴史を塗り変えてほしいです。そして私達はこの福島東高サッカー部で学んだ事に誇りをもって、これからの将来につなげて行きたいと思えます。

(角田圭太)

野球部

この三年間で学んだことは、努力することの素晴らしさです。周りの皆よりも努力したかは分かりませんが、自分なりに三年間努力しました。その結果、野球と出会い、素晴らしい人達と出会うことが出来ました。それを一番感じたのが野球部全校応援です。最高の部員達と野球をし、最高の友達に応援してもらったことは一生忘れません。あの応援は東高校の雰囲気の良いものであると思います。応援に来ていただいた、先生方、保護者の方々、在校生他にも多くの方々に感謝しています。この三年間は社会に出て失敗した時に耐えられる精神力と、支えてくれる友達を作らせてくれた場所でした。このような経験は誰にでもできることではありません。経験できた私は本当に幸せ者だと思えます。これからも、今まで出会ってきた人達を大切にし、努力し続けようと思えます。

(浜尾末丘斗)

男子バスケットボール部

私は、三年間のバスケットボール部の活動を通して、団結力、チームプレーの大切さを改めて

学びました。バスケットに限ったことではありませんが、団結力の向上やチームプレーにおいて一番大切なのは、「コミュニケーション」や声を出すことだと思えます。自分の思ったことを伝え、みんなが思ったことをしっかりと聞くことで信頼が生まれます。辛い練習のとき、試合でミスをしたときに励ます声、ナイスプレーをしたときの声で、チームがひとつにまとまります。お互い切磋琢磨することで団結力が高まりました。

チームがひとつになって戦った高体連県大会では、一点差の苦しい試合を勝つことができ、東高のバスケット部で本当によかったと思います。

熱心に指導して下さった先生方をはじめ、応援してくださいました方々、仲間本当に感謝しています。(阿部洋晃)

女子バスケットボール部

バスケット部に入部してから引退するまで悩んだり苦しんだりする時期がたくさんあったけれど、それらの乗り越え方や、仲間の大切さを改めて学ぶことのできた充実した時間でした。

一年生の頃は、先輩方について行くのに必死で、試合でも頼ってしまふ場面が多かったのですが、二年生になり部長になって初めて、チームをまとめることやプレーで仲間を引っ張っていくことの大変さが分かりました。最初はうまくいかず悩むこともあったけれど、仲間の支えがあったおかげで、お互いに信頼し高め合えるようなチームになることができました。

山岳部

最後の大会では、自分達の目標には届かなかつたけれど、このチームと一緒に戦えたことを誇りに思います。これからは仲間や先生方、家族への感謝の気持ちを忘れずに部活で学んだことを活かしていきたいです。(佐藤萌々)

私は山に登る度、壮大な自然の中に身を置くことでちっぽけな自分を実感し、深刻に考え込んでいたことが、実は些細なことであったと気が付かされたりしました。そして、どんなに辛い山行であっても「また登りたい。」と、山に惹かれていきました。

しかし、準備無しに登山は出来ません。地図や食料に始まり、防寒着、医療品、地形や植生の確認、緊急連絡の仕方、それらをまとめた計画書の作成に至るまで多岐に渡る事前準備は、全て命を守る事に直結します。一つの目標を達成するために、細かい準備を見通しを立てて計画的に行う、この経験は大切なことを何度も確認する習慣を身に付けさせてくれました。

また山岳部は、自分自身の言動を見直す機会を与えてくれた場でもあります。

沢山の学んだ事ひとつひとつを無駄にせず生かしていきます。(中村直貴)

ダンス部

私が部活動を通して学んだことは、仲間と協力し、同じ目標へと向かって一つのものを作り上げる難しさとその喜びです。その中でも「わらじ祭り」で

の発表は、来て下さるお客さんの数も多いのに、部活動の七代目として初めての発表だったので、たくさんのとまどいや衝突がありました。しかしそれを乗り越え部員一丸となって作り上げたダンスは見事最高賞である「グランプリ賞」を受賞し、最高のスタートを切る事ができました。その時に感じた喜びを大切に、その後も充実した部活動を続けることができました。

そして、今年七月二十五日に行われた発表会では、仲間と試行錯誤し作り上げたたくさんのジャンルのダンスで満員の福島テルサを一時半熱狂させ、満足するものとなりました。

この経験は私にとってかけがえのないものであり、部員達とともに多くのことを学べたと思います。(古俣謙一郎)

合唱部

私が部活動を通して学んだことは、「過程」の大切さです。中学校の頃から合唱部に所属していた私は、全国大会まで進み、良い結果を残すことが大事なことだと思っていました。しかし、部員が一丸となつて毎日コツコツ練習し、自分たちの音楽のレベルが上がっていくのが実感できるようにになると、それが大きな喜びと充実感を生み、大事なことは結果だけではないのかもしれないと思つていくなつてきました。だからと言って、結果が大事ではないわけではありませぬ。全国大会に進めなければももちろん悔しいし、涙してしまつこともありました。でもそんな悔しい気持ちになれたの

も、日々の努力や、真剣な思いがあつたからです。仲間と頑張ってきた日々こそが私の何よりの宝となりました。目標に向かって努力することの大切さを、身をもって実感した三年間でした。(佐藤 幹)

科学部

部活を通じて学んだこと、と言われ、何を書くべきかしら迷った。理科の知識のことならば長々しく、それこそ飽きるほど書けるのであろうが、この場ではそれでよしとはならないだろう。無駄で長い前置きだったが、せめて残りの紙面を本題に使うことは許して欲しい。

科学部で学んだことは、シナリオ 計画性の大切さだ。実験に使用する亜硝酸アンモニウム、ケイ酸ナトリウム、水酸化カルシウム等多種多様にあるが、ひとつとして勝手に使えない。めいめいやりたい実験はあつたのであるが、危険性ゆえそれらをすぐに使うことはできないのだ。

当然監督者の下でやらなければならぬのだが、都合があるから、なかなか実験ができない。これは完全に私の計画性の無さが原因である。そんなわけで、計画性の重要性が分かつた二年余だった。(遊佐 昂)

書道部

振り返ってみると高校三年間は部活と勉強と充実したように思われる。三十二期のメンバーは僕しかいなかったが、後輩たちに支えられながら書道に打ち込むことができた。

美術部

私が美術部を通して学んだことはとてもたくさんあります。その一つは、協調性があります。東高美術部の展示会の桜美展にむけてポスターや作品を作るために部員と話し合い無事に展示会を開催できました。

また、作品製作の過程でも、他の部員や先生からアドバイスをもらつたり、自分からアドバイスをするなど、良い雰囲気の中で活動することができました。

研修旅行などを通しては、美術館で「本物」を見たり感じたりすることができ、貴重な体験をすることができました。

私はこれからも美術に関わっていきたくて考えています。そのため、部活動を通して学んだことをこれからも生かしていきたいと思えます。(三瓶 凜)

活動を通して学んだことは、みんなので一つの作品を創り上げることに楽しさである。高校二年のときに経験した文化祭での書道部の発表。元々書道は個人で書くものであり、みんなで書くものとは考えていなかった。しかし、書くものは決まっていたもののびのびと自由に書くことができた。このことは「堅苦しい」という書道の概念を変えた経験であった。

部長として何かをしたというわけではない。後輩たちにはいろいろと迷惑をかけたが、部長という立場を経験して成長できた面もたくさんあつたと思う。

最後になりましたが、橋本先生、穴戸先生、今まで本当にありがとうございました。(齋藤駿太)

演劇部

私達は、春の発表会、秋のコンクール、県北講習会、明成高校演劇部さんとの交流練習など様々な活動をしてきました。発表会やコンクールでは、他校の発表を見て、たくさんの方と学びました。

県北講習会では、プロの俳優さんや舞台技術の方に、技術的な面や精神的な面でのことについて学びました。

明成高校との交流練習や、他校生との交流というのは、私達に色々な考えや視点を教えてくれる有意義なものでした。

三年間演劇部で活動してきて、たくさんの方と学び、活かし、そして楽しんで活動出来たと思います。(土屋弘恵)

吹奏楽部

まず初めに、第三十回定期演奏会に出演して頂いたOB・OGの皆様と客演して頂いた先生方にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、私達は顧問の星英一先生の指導の下で日々の練習に余念がありません。今年から校舎の改修工事が本格的に始まり、決して良い環境ではありませんが後輩達はよく頑張っています。

今年の曲目は課題曲「エンターテインメント・マーチ」とE・コルンゴルト作曲「死の都」を演奏しました。県大会は銀賞で納得のいくものではありませんでした。私自身も未練の残る演奏でとても後悔しています。私はこの事から物事を上手く進めるには何倍も努力しなければ

ならない事を学びました。最後に、今後とも東高吹奏楽部の活動を温かく見守って頂けると嬉しいです。(佐藤渥祐)

放送委員会

番組制作などの活動を通して不特定多数の相手に情報を伝えることの難しさ、そして、「伝えたい」という思いを形にしていく楽しさを学びました。

また、この三年間の間に全国総文やNHK杯全国高校放送コンテストに出場することができ、とても貴重な経験ができました。

そして快くインタビューを引き受けてくれた先生方、生徒のみなさんありがとうございました。(菅野愛生)

応援ブラスバンド部

私が部活見学へ行った時、先輩が四人だつたブラスバンド。しかし、最後の大会では、応援団も含めて二十四人の仲間と応援しました。

私も含めて、ほとんどの部員が初心者で、音を出すだけでも精一杯。そのため、全員で揃った演奏をするのも大変でした。しかし、少しだけでも野球部さんの力になるような演奏をしたい。

その思いで、練習法を色々変更したり、新曲を作つて練習しました。その練習の成果もあり、試合では大きな音で太鼓と共に、楽しく応援ができました。

私はブラスバンドに入って、誰かを一生懸命応援する素晴しさや勝つた時の感動など、たくさんこのことを学びました。後輩達には、応援専門という東高特有のこの部活を、更に活発なものにしてもらいたいです。(山田菜々)

福島東高校の先輩に学ぶ

「東高でみつけた夢」

(独) 国際協力機構 (JICA)
中崎 明那(三期生)

二〇一三年十一月、総合学習「さまざまな職業人に学ぶ」の講師を務めるため、およそ八年ぶりに東高に足を踏み入れました。久しぶりに、勉強でも部活動でも大変お世話になった先生とお話できました。「東高に入つてよかったことって何？」と聞かれ、私は答えられませんでした。

私の高校時代のすべてが東高に入つたからこそのものであり、すべてがよかったことだつたから。何がよかったと一言で言えるものではなかったから。

本当に恵まれていました。勉強も部活動も、全身全霊、命をかけて、といつても言い過ぎではないほど、先生方は私たちに力を注いでくださいました。そして、目標に向かって一緒にがんばる仲間、というより、一緒に「がんばりたくない」仲間がいました。そして、自分の夢を見つけないで、先生方と仲間と背中を押してもらい、その一歩を踏み出すことができました。

私は高校三年の受験勉強中に、自分の将来の夢を見つけないで、二次試験対策として、毎日三十分ほどインターネットでニュースを読み、自分の考えを書いたり、気になるニュースを調べていました。ある時、ロシアで学校占拠テロ事件が起きました。犯人はチエチエン人だと報道され、チエチエンを調べて行き着

いた先が、チエチエンの子どもを支援する日本のNPOのホームページでした。そこに載っていたのは、日本の支援に対することでもたのお礼の手紙。ロシアで何が事件が起きればすぐチエチエン人が犯人扱いされてしまうこと、ロシア軍の飛行機からおもちゃ爆弾が落とされること、そんな悲惨な環境を訴えながらも、日本の支援に感謝するとともに、「これからも日本が平和で幸せな国でありますように」と願ってくれていたのです。

涙が流れました。世界にはこんなひどい環境にいる子どもたちがいて、私はこんなに幸せに生きていられます。テレビで貧困に苦しむ子どもたちを見ることはありましたが、「かわいそう」としか思つていませんでした。チエチエンの子どもの手紙を見て初めて、自分と同じ世界のことなんだと実感し、このことに気付けた私は何かしなま、将来の夢、というより、自分の使命を見つけたのでした。

もちろん大学に進んでからもその想いが消えることはありませんでした。ただその時できたことは、国際協力に関する書籍を読むこと、国際協力に関する授業を受けること、だけでした。大学でも部活動に夢中になり、アルバイトもして、他に国際協力の活動をする時間を作れませんでした。

そしてあつたという間に進路を決める時期になりました。専門的に国際協力をするためには大

学院に行くことが望ましいと聞いていましたが、大学卒業でできる範囲で国際協力をしたたい、専門的に国際協力に関わるのではなく、もっと国際協力活動をしたくない人にとつて身近なものにしたい、と思い、就職活動を始めました。

第一志望の(財)日本国際協力センター (JICE) に内定を頂くことができ、約三年間、(独) 国際協力機構 (GIZ) の研修員受入事業の事務手続き業務とJNTOという東アジアと日本の交流事業の企画・実施業務に携わり、日本国内での国際協力および国際交流の現場を目にする事ができました。

その後、事業仕分けの影響もあり、JICAに転職し、再び研修員受入事業を担当しました。現在の業務は、夢を見つけた当時描いた国際協力の形とは違っています。しかし、東高だからこそ出会い合格させてもらった大学での経験を経て、自分に合った国際協力の形と出会うことができました。

そして現在育児休暇中であるため、仕事や自分の夢を考える時間がなくなり、国際協力への想いが少し薄れていきましたが、今回の「さまざまな職業人に学ぶ」の講師を務める機会を頂き、夢を見つけた当時の想いを再び思い出すことができました。

やはり私は東高でよかった、東高でないといけなかった、と心から思います。

この場を借りて、先生方と仲間、東高だからこそ出会えた人々に、たくさん感謝の気持ちを伝えたいです。

本当に本当にありがとうございました。

本当に本当にありがとうございました。

